



福島さあいべ！

福島県本部 澤村執行委員長あいさつ

福島は復興したように見えるが、山間部の除染はまだ進んでおらず、住民の帰還も進んでいない。また、政府は帰還できていない住民に対する予算を見直そうとしているが、政府や東電は福島を元の状態に戻し、原発事故を起こした責任を果たしてもらいたい。福島の中でも一丸となって原発に反対できているわけではない。本集会でまなんだことを県本部や単組の仲間に伝え、広げてほしい。



たたかいの報告 ～原発事故による組合への影響～

原発事故の被害に遭ったにもかかわらず、なぜ県内で反戦・平和に関する取組が進まないのでしょうか。その理由は、とくに事故の影響を受けた自治体とそうでない自治体との分断が挙げられます。原発が多額の交付金を受け財政を持ち直したことで、雇用を生み出していることもあり、原発を撤退させるのではなく、交付金を受け取り続けたい思いが強いということにあります。

このような仲間の分断を生み出すような政策を許さないためにも政治闘争に取り組む必要があります。なぜこのような事態が起きたのか、物事の本質をしっかりと見極めることが大切ですとの話がありました。

皆さんの県本部・単組でも、今起こっている問題についての本質を理解し、仲間と議論し、組合活動につなげていくことが大切です。



福島県本部青年部長
木野内 靖さん

講演 ～自治体職場から見た原発事故の当時と今～

被災自治体では他の自治体にはない業務に追われ、国からの予算や業務が来ることがあっても、人員は補充されておらず、早期退職や休職が増加しています。原発事故から13年以上が経過し、自治体も住民も異常な状態に慣れてしまっている状況にあり、「今の状態を異常な状態である」と自覚することがこれからの課題です。

原発事故の責任はどこにあるのでしょうか？事故を起きたにも関わらず、いまだに政府は原発を「最大限活用」する方針を

を掲げています。原発がすべてなくなるには、経済や代替エネルギーの課題がありますが、一度依存してしまうと、抜け出すことは難しくなります。福島で起きたことは他人事ではなく、自分の地域には絶対に起こらないという根拠はありません。同じ過ちを繰り返さないためにも福島の現状を自分ごととして、反原発の運動を皆で考えていきましょう。



二本松市職労 中村 洋介さん



▲講演で放映された動画

沖縄県本部から決意表明をいただきました！

分散会での他県本部の仲間との意見交換や伝承館の見学、フィールドワークなどに参加し、災害時における公務労働者の役割の重要性を改めて認識させられるものでした。

特に、被災地で対応にあたった大熊町職執行委員長の愛場さんから、家族を遠くに避難させながらも、公務員としての責務から被災地に残り災害対応を行なったこと、避難所運営や災害対策本部で過酷な労働環境に加え、原発事故という複合災害の影響により精神的・肉体的な負担が非常に大きかったこと、震災の影響により多くの早期退職者が発生したこと、などの生の声を聞くことができました。

沖縄県には原子力発電所はありませんが、米軍をはじめとした原子力空母が寄港する米軍基地があり、実際に原子力災害が発生した際の対応を訓練を実施しています。愛場さんの体験は沖縄県にとっても他人事ではありません。

福島原発建設は、行政による補助金提供も大きな影響があったと聞きました。このように財政難に直面する自治体においては政治の道具に使用される可能性が極めて高いです。この構造は、沖縄の基地問題とも共通しています。また、原発事故によって多くの人々が故郷を追われた現実、沖縄県の米軍基地の問題とも重なり、異なる背景を持ちながらも故郷を追われる問題は共通しているのではないかと感じました。

本ツアーを通じて、私たちは大地震・原発事故の悲惨さと、それに立ち向かう自治体職員、そして復興に懸命に取り組む住民の姿を目の当たりにし、多くの気づきを得ることができました。本ツアーでの学びを沖縄県本部青年部に共有し、福島県での出来事を「他人事」から「自分事」として考えてもらうように取り組んでまいります。



鳥取県本部 倉吉市職労の藤井勇輔さんより、意気込みをもらいました！



自分が原発問題を考えると、その功罪の多さにより答えを出しきれず思考が止まってしまっていました。そこで、福島スタディツアーに参加し、現地で五感で感じることによって、思考のレベルを1段階上げたいと思っています。

またこの問題は、原発がある地域だけの問題でなく、自分たちのまちにも起こりうる問題だと思っています。

公務員として政策決定に関わる可能性がある私たちが、自分の住むまちでこの問題に直面した際に、正しい知識を持って議論できるようになっておきたいと思い、このツアーに参加しました。全国の仲間の皆さん、共に考えましょう！

ちょこっとコラム

福島第一原子力発電所 廃炉資料館

廃炉資料館では原発事故の原因の総括がされていました。「直営工事力不足」「安全よりも稼働率（もうけ）が重要な経営課題だった」など…私たちの職場にあてはめるとどうでしょうか？「廃炉作業は地域住民に不安を与えないように行う」との決意も示されていましたが、そのための新たな隠蔽があってはなりません。（見学した仲間より）

